

吹田市の近年の文化財保護事業



▲美術工芸調査風景



▲出土した石製帯飾り
(平安時代、榎坂遺跡)

▲発見された溝・ピット
(平安時代、榎坂遺跡)

本年4月1日に吹田市の機構改革があり、博物館が文化財保護課に名称変更され、文化財保護担当、博物館担当、庶務担当が設置されました。展示及び調査研究の施設としての博物館は従来通りの業務を行っていますが、より文化財保護の推進を目指し、本号では文化財保護事業等についての特集といたします。

文化財保護の取り組み

市内には、古い建物や古文書^{こもんじょ}、遺跡、民俗行事など、吹田の歴史・文化を伝える様々な文化財が残されています。文化財保護課では、それらの保存と活用を図るため、以下のような事業を行っています。

文化財調査事業

埋蔵文化財調査

埋蔵文化財包蔵地及びその周辺地での土木工事等に対応するため、発掘調査や試掘調査等を行っています。平成23(2011)年度は16件の発掘調査、6件の試掘調査、74件の立会を実施し、平成24(2012)年度は20件の発掘調査、11件の試掘調査、37件の立会を実施しました(10月末現在)。このうち、2遺跡で包蔵地の範囲が拡大することが判明し、また1件の新規発見の遺跡がありました。

その他文化財調査

市内にある文化財の保護を目的として、文化財の所在状況や実態を把握するために学術的な調査を行っています。平成23・24年度には、蔵人稲荷神社敷地内に所在する清林庵(江戸時代建立)の調査、旧中西家住宅の庭園・古文書調査などを行いました(10月末現在)。

歴史的建造物保存・活用事業

旧西尾家住宅(国指定重要文化財)

明治28(1895)年に建築された主屋^{しゅおく}をはじめ、茶道藪内家^{やぶのうちけ}の指導になる茶室、建築家武田五一設計の離れなど、多彩かつ優れた建造物からなる旧西尾家住宅は、平成17(2005)年10月1日より旧西尾家住宅(吹田文化創造交流館)として一般公開しています。お茶会や西尾家にゆかりの人々・文化に関する特別展など様々な事業を行っており、平成24年3月17日から4月8日にかけては小さな特別展として「蒔絵師^{まきえし} 神戸雪^{かんのせつ}汀と西尾家」展を開催するなど、積極的な文化財の保存・活用に努めています。

旧中西家住宅

(国登録有形文化財、市指定有形文化財)

中西家は江戸時代後期から幕末にかけて庄屋^{おおじょうや}や大庄屋をつとめました。その住宅である旧中西家住宅の主屋は文政9(1826)年に建てられ、他の附属する建物も同時代に建造されたもので、近世後期の庄屋の屋敷構えを極めて良好に伝



▲埋蔵文化財調査風景



▲イベント風景(旧西尾家住宅「春の大茶会」)



▲ボランティア解説風景(旧中西家住宅)

えています。稀有な造形と築庭手法がみられる庭園の評価も高く、建造物とともに旧中西家住宅(吹田吉志部文人墨客迎賓館^{きしべぶんじんぼっかくげいひんかん})として一般公開しており、春と秋には特別公開を行っています。

文化財保存・啓発事業

文化財説明板の設置

文化財についてより広く市民の方々に理解してもらうために、市内の遺跡等の所在地に説明板を設置しています。現在、市内34ヶ所に設置しており、平成23年度には佐井寺くり抜き水路の説明板の改修を行いました。

補助金の交付

吹田市文化財保護条例などによって指定・登録を受けた文化財が、保存修理や保存事業を行う場合に、所有者等に補助金を交付しています。

平成23年度は、市指定有形文化財1件、市指定無形民俗文化財1件、市登録無形民俗文化財4件の計6件の文化財に対して、その保存と活用を図ることを目的に補助金を交付しました。（中岡宏美）

=文化財保護課からのお知らせとお願い=

文化財保護法は、貴重な文化財を守るため、周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）内で建築工事や造成等の開発行為を行う場合、工事着手日の60日前までの届出を規定し、その保護のために必要な措置をとることとしています。

吹田市内には、150ヶ所の埋蔵文化財包蔵地が確認されています（平成24年10月現在）。地域の文化財を守るためにも、市内で土木工事等を行う場合には、事前に本市文化財保護課までお問い合わせいただき、予定地が埋蔵文化財包蔵地であるかの確認を行い、必要な場合は文化財保護法に基づく届出等を行うとともに文化財保護課と協議いただきますよう、ご理解・ご協力のほどよろしく願いいたします。

すいたの石造物②

六観音六地藏（芝田町1）

吹田操車場跡地からすぐ近くの墓地に、六基の石仏が並んで立っています。一つの舟形光背に観音と地藏が対になって表されている珍しい形式です。よく見ると、それぞれ持ち物や手の形式を変えており、六観音と六地藏を表したものと分かります。光背には、いずれも

元禄十二己卯年八月廿七日

願主休保

と彫られており、元禄12（1699）年に休保という人物が願主となって建てた石仏だと判明します。石は花崗岩ですが、六基とも黒ずんでおり、所々に赤褐色の付着物があるのを踏まえると、いつの頃か土中に埋まっていた可能性も考えられます。

六観音とは、六道（天道・人間道・修羅道・畜生道・餓鬼道・地獄道）をまわる人々をその苦しみから救ってくれること（六道抜苦）を意図した六体の観音菩薩です。地藏菩薩に対する信仰が盛んになるにつれ、観音と同じく六体の地藏が六道それぞれを割り当てられた六地藏が造立されるようになりました。

石造の六観音、六地藏ともに、墓地などで独尊六基の形、あるいは六角の石幢せきどうに彫られた姿をよく見かけます。両者を一緒に表すという点では、「石造六地藏六観音像」（永正15〔1518〕年、佐賀市坪の上天満宮、市重文）のように、一基の石幢に両者が上下に彫られている作品が挙げられますが、本作のように対にして並べるとい

う形式はあまり例がなく、特異なものです。民間信仰の中から生まれてきたといえるでしょう。

（寺澤慎吾）



▲六観音六地藏近景



▲六観音六地藏細部



1 吉志部瓦窯跡 (国指定史跡)
平安京造営当初の瓦を生産した窯跡で、これまでの調査で平窯15基以上、登窯4基の窯跡と平窯群の背後を走る排水溝などが確認されています。

2 吉志部瓦窯跡工房跡 (大阪府指定史跡)
窯跡群の南側に展開する工房跡で、吉志部瓦窯跡操業時の掘立柱建物跡、溝、回転台跡等が確認されています。



3 吉志部火葬墓
公園の造成工事の際に発見された火葬墓です。蔵骨器は平安時代初めの須恵器の壺で中に火葬骨が納められていました。



5 吉志部2・3号墳
詳細は不明ですが、尾根上に2基の古墳があったと考えられます。6世紀初め頃の須恵器、埴輪等が出土しています。



7 吉志部1号墳
横穴式石室が残る市内唯一の古墳です。調査により、須恵器、鉄製品、ガラス玉等が出土しました。7世紀初頭の当地の有力者の墓と考えられます。



4 ピンク火山灰層露頭
約100万年前に大分県の耶馬溪付近にあった火山の噴出による火山灰が西風に乗って運ばれた結果、千里丘陵の地層に堆積したものです。



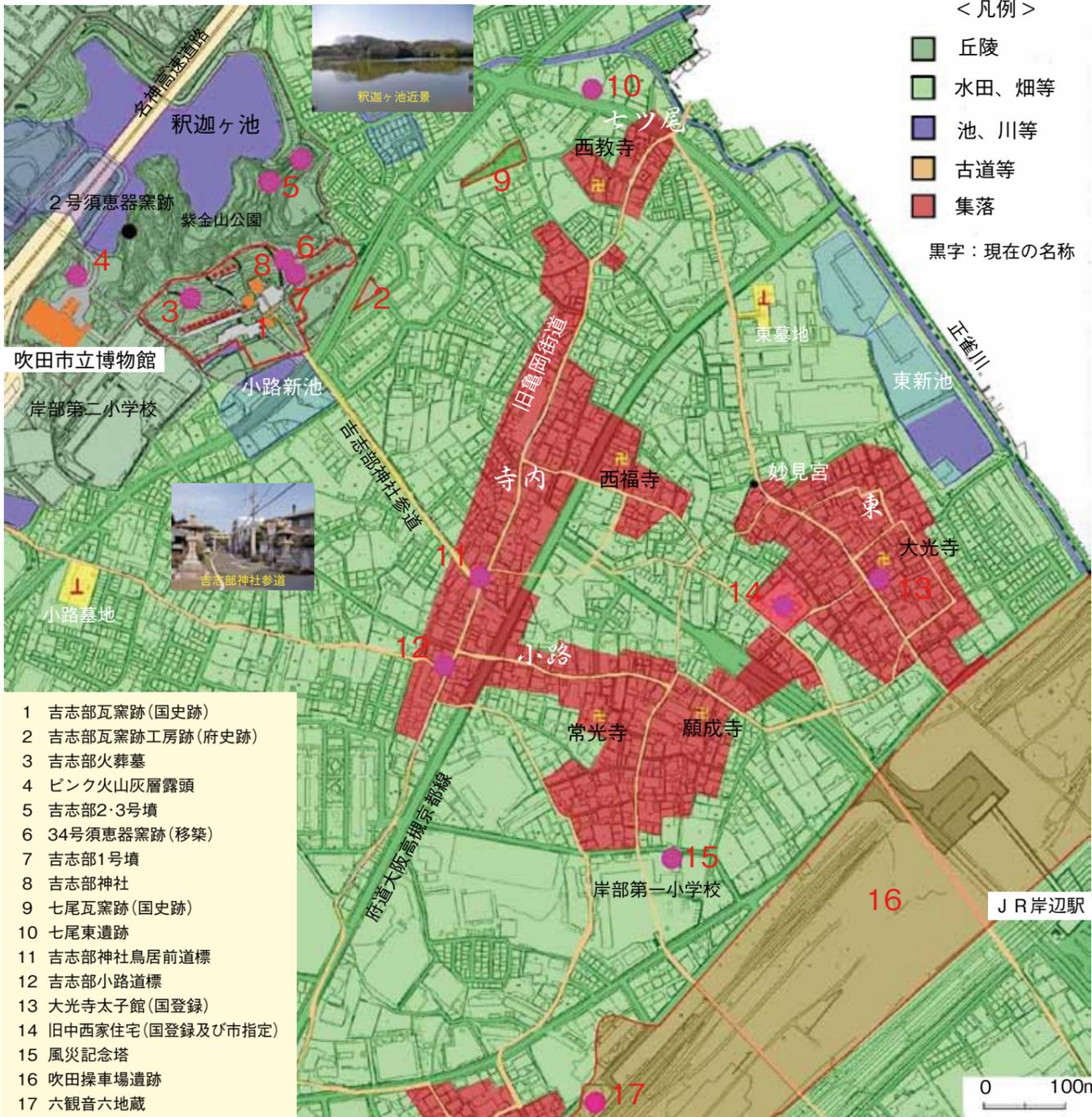
6 34号須恵器窯跡 (移築)
古墳時代終末期(7世紀初め頃)の須恵器窯跡です。床に傾斜のある登窯で、天井の一部が残っていました。



8 吉志部神社
本殿は慶長15(1610)年建築の檜皮葺七間社流造で国の重要文化財に指定されていましたが、焼失し、現在は新しい社殿が再建されています。

岸部周辺の文化財

岸部地域は吉志部瓦窯跡(国指定史跡)、七尾瓦窯跡(国指定史跡)、旧中西家住宅(国登録有形文化財及び市指定有形文化財)など重要な遺跡や文化財が豊富に残るところです。こうした文化財を探訪してみませんか。



- 1 吉志部瓦窯跡(国史跡)
- 2 吉志部瓦窯跡工房跡(府史跡)
- 3 吉志部火葬墓
- 4 ピンク火山灰層露頭
- 5 吉志部2・3号墳
- 6 34号須恵器窯跡(移築)
- 7 吉志部1号墳
- 8 吉志部神社
- 9 七尾瓦窯跡(国史跡)
- 10 七尾東遺跡
- 11 吉志部神社鳥居前道標
- 12 吉志部小路道標
- 13 大光寺太子館(国登録)
- 14 旧中西家住宅(国登録及び市指定)
- 15 風災記念塔
- 16 吹田操車場遺跡
- 17 六観音六地藏

岸部地域の文化財

(当図は現代の地形図に明治末の水田、集落等の情報を重ねて作成したものです。)



9 七尾瓦窯跡 (国指定史跡)
東西に伸びる台地の北斜面に登窯6基と平窯1基が築かれています。出土した瓦から、聖武天皇の後期難波宮の瓦が生産されたことがわかりました。



10 七尾東遺跡
調査で弥生時代中期の竪穴式建物跡が発見されました。復元径約8.4mの円形で中央に炉跡が確認されました。



11 吉志部神社鳥居前道標
大正15(1926)年建立で、旧亀岡街道と吉志部神社参道の分岐点に建てられています。



12 吉志部小路道標
江戸時代の道標で市内唯一の一石五輪塔形のもので、旧亀岡街道から佐井寺観音に向かう道の分岐点に建てられています。



13 大光寺太子館 (国登録有形文化財)
昭和13(1938)年に聖徳太子を顕彰するために地元の大工により建築されたものです。上層は和風に下層は洋風の手法が使われた建物です。*見学はお寺の許可を得てください。



14 旧中西家住宅 (国登録有形文化財及び市指定有形文化財)
文政9(1826)年建築の主屋、土蔵、長屋門など7棟を備える近世吹田の大型民家の典型です。主屋は入母屋造・瓦葺ツシ2階造の建物です。*見学は事前申込が必要です。



15 風災記念塔
昭和9(1934)年に襲来した室戸台風により、現在の岸部第一小学校の木造校舎が倒壊し、28名の犠牲者が出ました。台風の被害と犠牲者を忘れないように石塔が建てられました。

(西本安秀)

近年の吹田操車場遺跡の発掘調査成果



写真① 縄文時代晩期～弥生時代 溝の状況



写真② 古墳時代後期～奈良時代頃 土坑群検出状況

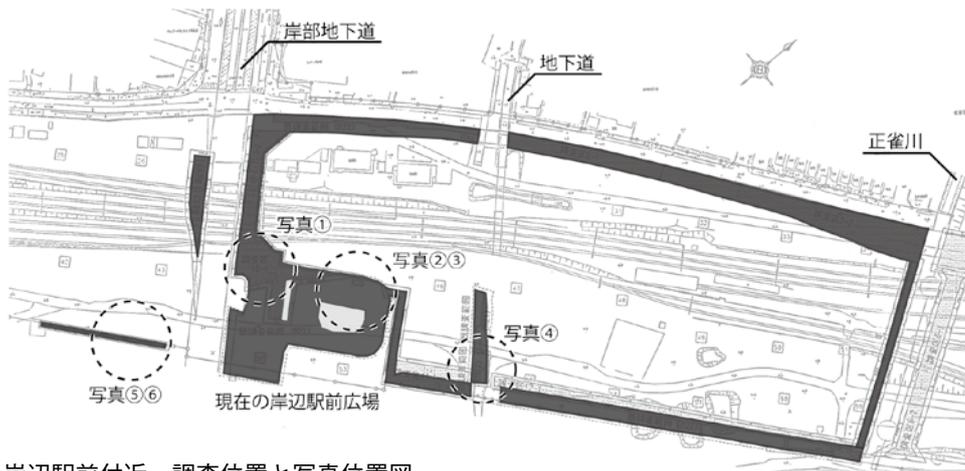


写真③ 古墳時代後期 土坑出土の須恵器提瓶

吹田操車場遺跡は、JR 東海道線吹田駅付近から岸辺駅付近にかけて、旧国鉄吹田操車場跡地に広がる遺跡です。この遺跡は、昭和42(1967)年に発見され、その後、遺跡の確認調査や吹田信号場駅基盤整備工事に伴って、様々な箇所が発掘調査がおこなわれました。ここでは、平成21(2009)年から実施している岸辺駅前付近での吹田操車場跡地土地区画整理事業に伴う発掘調査と、吹田駅付近での貨物専用道路工事に伴う発掘調査の成果を報告します。

まず、岸辺駅前付近での調査成果ですが、現在の岸部地下道のすぐ東側、ほぼ並行する位置で、北西－南東方向の大きな谷状の地形を検出しました。この谷につながる溝(写真①)から、縄文時代晩期の土器片とサヌカイト製石鏃が出土し、別の溝からは弥生土器も出土しました。

写真②③の場所では、ここを中心に古墳時代後期～奈良時代頃に属する土坑(どこう)を250基以上検出しました。平面形は楕円形か不整形を呈し、大きさは1～2m前後あります。過去の調査でも311基の土坑がみつかっており、これまでにおよそ550基以上の土坑が当遺跡で検出されたこととなります。調査区北西にある千里丘陵一帯は、5世紀以降、須恵器を焼いた千里古窯跡群、後期難波宮所用瓦を焼いた七尾瓦窯、平安京所用瓦を焼いた吉志部瓦窯が築かれ、窯業生産の一



岸辺駅前付近 調査位置と写真位置図

大拠点となります。過去の調査事例や埋土の観察から、これらの土坑は、窯業生産品に用いられる粘土の採掘坑である可能性が高いものです。土坑からはあまり遺物が出土していませんが、古墳時代後期の須恵器の提瓶^{ていへい}が出土し、土坑が掘削された一時期を示すものもあります(写真③)。

写真④の場所では、飛鳥時代の掘立柱建物跡を検出しました。近接した場所では飛鳥時代の陶^{とう}硯^{けん}が出土していることから、文字を使用し、粘土採掘を管理監督するような施設があったことも想定されます。

写真⑤⑥の場所では、奈良～平安時代の集落跡を検出し、7棟分の掘立柱建物が復元できました。また、井戸が1基みつき、炭や土器の碎片が混じった土で、人為的に埋め戻されていましたが、掘り下げていくと、長辺1.1m × 短辺0.9mの井^い桁^げに組まれた木枠が残っていました(写真⑥)。

吹田駅付近の調査では、写真⑦の場所で、これまでみつかっていなかった中世に属する木棺墓を検出しました。墓からは、木棺の上に置かれたであろう土器と人骨の一部がみつかりました。木棺の大きさは、長さ約1.5m、幅約0.5mを測り、12世紀中～後半頃につくられたものです。今のところ、集落は確認されていませんが、こうした墓は、屋敷地の近辺に築かれる例が多く、付近に集落が存在する可能性が高いと思われます。

吹田操車場遺跡は、広大でありその全容をつかむにはまだまだ情報が足りませんが、各時代にわたる人々の活動の歴史がおぼろげながらみえてきました。

(公益財団法人大阪府文化財センター 鹿野 壘)



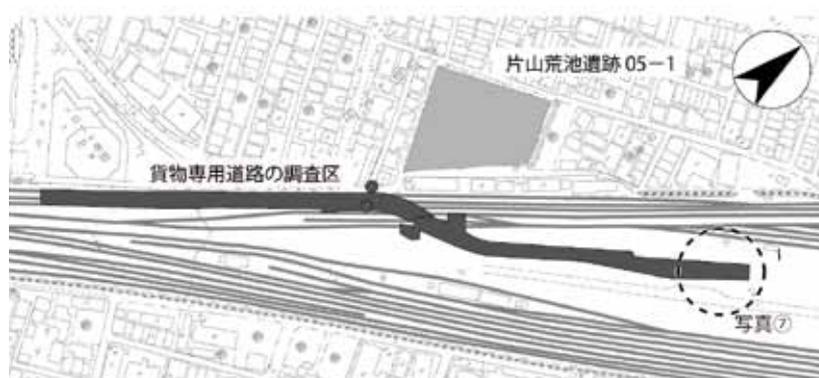
写真④ 飛鳥時代 建物柱跡出土の須恵器杯



写真⑤ 奈良～平安時代 集落跡検出状況



写真⑥ 奈良～平安時代 井戸検出状況



吹田駅付近 調査位置と写真位置図



写真⑦ 中世 木棺墓検出状況

「応接室ギャラリー」を始めました。

応接室をギャラリーとして彫刻・絵画の展示をし、公開しています。

彫刻は、当館初代館長・西村公朝氏(1915～2003年)の作品です。長く仏像修復に携わり、宗教芸術家としても活躍しました。素材が活かされた、力強いノミ跡と温和な表情の対比の妙を堪能してください。

絵画は、吹田市在住で大阪芸術大学教授・村居正之氏(1947年～)の作品。日展などで現在活躍中です。日本画ならではの岩絵の具のやわらかな明るさが、たいへん印象的です。(寺澤慎吾)

観覧できる日時

博物館開館日の午前9時30分～午後5時15分

*ただし、会議等で応接室が使用中の場合は、観覧できません。予めご了承ください。



平成24年度特別企画 「むかしのくらしと学校」 関連イベント

◆親子体験講座◆

「昔あそびとやさしいおもちゃ作り」

日時：平成25年2月3日(日)

午前の部 10時～12時

午後の部 1時30分～3時30分

講師：シルバーアドバイザーのみなさん、博物館ボランティア

内容：竹を素材とした昔ながらの遊び道具や、牛乳パックなど身近な材料を使ったおもちゃ作りをします。

場所：講座室 定員：午前、午後の部とも各20組

申込：1月23日(水)必着

「昔のあかりと火おこし体験」

日時：平成25年3月9日(土)

午前の部 10時～12時

午後の部 1時30分～3時30分

講師：博物館ボランティア

内容：ろうそく、行灯、石油ランプなど、昔のあかりを学習し、火打ち石やマイギリなどの火おこしを体験します。

場所：講座室(火おこしは屋外)

定員：午前、午後の部とも各20組

申込：2月27日(水)必着

「布ぞうり作り」

日時：平成25年3月20日(水)

午前の部 10時～12時

午後の部 1時30分～3時30分

講師：博物館ボランティア

内容：古着などの布地を使ってぞうりを作ります。

場所：講座室 定員：午前、午後の部とも各20組

申込：3月8日(金)必着

対象：小学生以上(少し難しいので)

「勾玉作り」

日時：平成25年2月23日(土)

午前の部 10時～12時

午後の部 1時30分～3時30分

講師：博物館ボランティア

内容：ろう石を削ったり、磨いたりして、昔のアクセサリー勾玉を作ります。

場所：講座室 定員：午前、午後の部とも各20組

申込：2月13日(水)必着

「木端細工とカラクリ工作を作って遊ぼう」

日時：平成25年3月17日(日)

午前の部 10時～12時

午後の部 1時30分～3時30分

講師：エコおもちゃ作り市民塾のみなさん

内容：木の枝などを使って楽しいおもちゃを作ります。

場所：講座室 定員：午前、午後の部とも各20組

申込：3月7日(木)必着

◆体験講座◆

「ひな人形を飾ろう」

日時：3月3日(日)

午前の部 10時～12時(随時)

午後の部 1時30分～3時30分(随時)

内容：博物館にあるひな人形を飾って、記念写真を撮りませんか(カメラは持参してくださいね)

場所：3階ロビー(観覧料が必要となります)

申込：不要

■申込方法 はがき、またはFAXに、講座名、希望の時間帯、住所、参加者全員の氏名、学年、電話番号を書いて博物館まで。

吹田市立博物館だより第52号 平成24(2012)年12月28日発行 発行 吹田市立博物館
〒564-0001 吹田市岸部北4丁目10番1号 TEL06(6338)5500 FAX06(6338)9886 ホームページ <http://www.suita.ed.jp/hak/>

この冊子は、3,000部作成し、1部あたりの単価は26円です。